

平成22年度業務評価委員会議事要旨

1. 開催日時：平成23年3月3日（金） 13：30～16：30
  2. 開催場所：独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部大会議室  
（さいたま市中央区新都心2-1さいたま新都心合同庁舎検査棟）
  3. 出席委員：
    - ◎委員長  
吉羽 雅昭 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事長
    - 外部委員  
池田 誠 財団法人日本肥糧検定協会 理事長  
岩田 三代 日本経済新聞社 論説委員（兼）編集委員  
梅津 憲治 大塚化学株式会社 技術顧問  
（日本農薬学会 前会長）  
大木 美智子 消費科学連合会 会長  
齋藤 文一 財団法人日本食品分析センター 理事長  
滝田 章 社団法人消費者関連専門家会議 理事長  
田島 眞 実践女子大学 生活科学部 教授  
林 清 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 所長  
矢野 秀雄 独立行政法人家畜改良センター 理事長
    - 内部委員  
戸谷 亨 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事  
杉浦 勝明 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事  
阪本 剛 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事  
小山 武文 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 監事  
碓井 憲男 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 監事（非常勤）
    - 同席者  
片山 信浩 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 企画調整部長  
長岡 功 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 総務部長  
三佐和芳郎 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 消費安全情報部長  
関 和夫 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 規格検査部長  
小森 栄作 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 表示監視部長  
飯田 健雄 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 肥飼料安全検査部長  
鈴木 伸男 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 農薬検査部長
- ※欠席委員：  
小杉 直輝 有限会社小杉食品技術事務所 代表取締役

4. 議事概要：

(1) 平成22年度業務の実施状況について

(2) 平成21年度業務評価委員会におけるご意見に対する対応状況について

外部委員	先日公表された「遺伝子組換え体混入の可能性のあるパパイヤの検査について」のプレスリリースを拝見したが、分析能力を有する農林水産省の関係機関が種子・苗に対する検査法の研究を行っているとの記載があった。この機関とはFAMICを指すのかと担当官に尋ねたが、複数の機関に委託しているが、FAMICの優先順位は低いように感じた。自分としては一番始めにFAMICの名前が上がると思っていたので、何か事情があったのか、その背景について説明をお願いしたい。
内部委員	今回のプレスでは、個々の機関名については記載されていないが、FAMICも検査法を確立するため、農林水産省の要請を受け参画している。このほか、関係機関として種苗管理センターや植物防疫所も参画しており、検査法の確立後は、水際で対応することになるので、まずはこれらの機関の名前を上げられたのではないかと。
事務局	少し補足をさせていただく。パパイヤの加工食品については消費者庁が遺伝子組換えの表示の制度化を検討している。今回のプレスに添付されている検査報告書概要では、実施機関が記載されており、FAMICでは本部の食品部門と飼料部門、このほか神戸センターが参画している。今回のプレスは、カルタヘナ担保法の観点から種子などに関する検査法を確立したものであるが、このほか、FAMICでは加工食品の分析法の研究も行っており、これらの分野において積極的に関与していると自負している。
外部委員	組織名の略称について、カタカナも使用しているとの説明があったが、アルファベットとカタカナの2種類の表記を使用しているということか。
内部委員	多くの場面でアルファベット表記の上にカタカナでファミックと併記して使用している。
事務局	カタカナでの表記を使用していないと、インターネットでカタカナにより検索する場合、当方の情報に辿り着かない。カタカナでの検索にも対応できるよう、ホームページなどにカタカナ表記を追加した。
外部委員	私の所属先である団体名も、略称名の呼び方が浸透するのに時間を要した。一定期間呼び方が浸透するまでは少なくともカタカナ表記を併記することは必要かもしれない。
外部委員	「要覧」の表紙に記載されている「FAMIC」についてもカタカナ表記を併記する必要があるのではないかと。
内部委員	要覧については来年度に見直しを行うので、その際、改善を図っていきたい。なお、

自分の名刺にはカタカナ表記も併記している。

(3) 平成21事業年度業務実績の評価結果について

(4) マネジメントレビューの実施について

(5) プロジェクトチームの設置について

外部委員	業務実績の評価において、「S評価」となった場合、何か特典があるのか、逆に「C・D評価」となった場合、何かペナルティが科されるのか。
事務局	「S評価」の場合に特典はないが、「C・D評価」であった場合には目標を達成できていないので、原因究明をし、改善を図ることが求められる。
内部委員	評価結果が悪かった場合、役員の退職金の査定に反映されることとなっている。
外部委員	研修は大事であるが、職員のスキルアップを促すような職場環境作りが大切ではないか。FAMICの現状はどうなっているのか。
内部委員	国に準拠し新たな人事評価制度を導入した。一定期間の始めに目標を立て、期間の終了時にどの程度達成できたか、また、成果がどうだったか、評価している。職員のモチベーション、資質の向上に役立っていると考えている。
外部委員	評価結果は給料や昇任にも影響するのか。
内部委員	評価結果を給料や昇任に反映させる仕組みとなっている。
外部委員	業務実績の総合評価において、食品や肥飼料、農薬に関する検査・分析業務を民間で実施できない理由の一つとして情報の漏洩防止を上げているが、最近では行政機関が漏洩した事案が多く、実施できない理由としてはあまり適当とは思えないので、今後、記載を工夫される必要があると思う。 また、業務実績に関する資料中の表において、「立入検査件数」と「収去点数」の実績をパーセントで表示しているが、本来は件数、点数を記載すべきであり、パーセントで表示すべきではないと思う。
事務局	目標が有害成分を含む恐れが高い肥料に関する立入検査、収去点数を増加させるとなっていることから、これらの比率をどの程度高めることができたかを表現する必要があるため、パーセントで表示することとした。
外部委員	表題が「件数」、「点数」となっているので、やはり何件、何点と記載する方がわかりやすいと思う。国民にわかりやすく情報を提供する観点から記載の工夫をお願いしたい。

内部委員	<p>補足説明をさせていただく。年間の立入検査や収去点数の母数が決まっており、それに対して有害成分を含む恐れが高い肥料に関するものがどの程度の割合であったかを表現する必要があった。また、計画自体もパーセントで記載されていることから実績についてもパーセントで表示する必要があった。</p> <p>ご指摘のとおりわかりにくい記載であると思うが、このような記載をしているのはこのような理由からである。</p>
外部委員	<p>アウトソーシングの対象として専門的知見の必要性が低い業務を上げられているが、専門的知見の必要性が高い業務であっても対象にできるのではないか。ご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>ご指摘のあった業務についても可能なものについてアウトソーシングを実施しているが、これらのものについては対応可能な一部について実施しているため、一括りの項目として上げることができない。計画には項目として記載できるものを列記している。</p>
外部委員	<p>アウトソーシングの推進をFAMICは目標に掲げられているが、その意義について考える必要があると思う。アウトソーシングした業務を担当していた職員を有効活用できなければ、人件費を削減することはできず、職員自らが行う場合と変わらない。一部業務に要する経費だけ注目していても効果は見込めない。経費を節減するには人件費の削減が必要となることから、長期的な視野に立って考える必要があると思う。</p>
外部委員	<p>最近では国際基準を満たしていない食品の分析機関のデータは採用されない。そうした意味で内部精度管理や外部精度管理に取り込まれることは大事であろうと思う。日々こうしたことに取り組むことでその大切さを職員は身近に感じることができる。研修だけではこうしたことを徹底することは難しい。</p>
外部委員	<p>職員を育てていくことは非常に重要であると思っている。FAMICは若手職員の教育についてどのような方針をお持ちなのか。</p>
内部委員	<p>分析データの信頼性を高める取組を実施していくこととしており、次期中期計画に盛り込む予定である。</p> <p>FAMICの業務は多岐に渡っているが、それぞれ業務においてきめ細やかに対応していく必要がある。若い時期に部門間の交流を図り、いろいろな業務を経験させるべきと考えているが、その一方で、分野ごとに専門性に特化した職員を育てることも必要と考えている。ただ、人事では必ずしもそのとおりとはならないので試行錯誤しながら対応しているところである。</p>
内部委員	<p>次期中期目標では人材育成に力を入れるべきとされている。私どもの仕事はデスクワ</p>

	<p>ークから分析までと分野が広いと、系統立てたカリキュラムを作成するよう、理事長として指示をしているところである。語学力については本来自己努力で対応するべきと思うが、国際会議で活躍できるように教育するため、外部講師を招聘し英会話研修を組織的として実施している。</p> <p>人材育成は重要であるが、現状はなかなか難しい問題である。ただ、正しい評価を行っていく必要があり、成果に応じて給料に反映できるようにしなければならないと考えている。</p>
外部委員	<p>前作に使用された農薬の作物残留検査に関するプロジェクトチームで取り組まれた結果はどのように取り扱われるのか。</p>
事務局	<p>もともとこの調査は農林水産省農薬対策室から依頼を受けて実施しているものであり、結果については農林水産省に報告している。生産指導に活用されていると聞いている。また、基準値を超える事例があった場合には、厚労省に情報提供されるものと認識している。今のところ、農林水産省でも公表はしていない。</p>
内部委員	<p>ポジティブリスト化の導入により土壌残留性の高い農薬に関する規制の方法が大幅に変更された。昭和40年代から半減期が1年を超えるものについては登録しないとされていたが、半減期が1年満たないものについてもポジティブリスト化により後作に影響が出る可能性が生じた。</p> <p>環境省が登録保留基準を定めるが、その際、半減期について180日を境として超える場合には後作物の残留が一律基準を超えないこと、180日に満たない場合には後作において基準値を超えないことを基準としている。</p> <p>登録検査の際、環境省の基準に抵触しないよう、申請のデータをチェックし、必要な措置を講じているが、まだ、不慣れな面もあるため、プロジェクトチームで得られた結果を登録検査に活用している。外部に公表はしていないが、検査の信頼性の確保に役立っている。</p>
外部委員	<p>農林水産省も厚生労働省もいつも問題ないので公表しないと言っているが、今でも講演などの場で残留農薬について不安を感じるという意見が寄せられる。安全性に問題はないのであれば、担当する機関はわからないが、どこか機関が公表し、国民を安心させていただきたい。</p>
内部委員	<p>次期目標期間では、検査の報告書を公表することが求められている。登録結果だけでなく、検査の過程についても公表していくよう、現在準備を進めているところである。</p>
外部委員	<p>せっかくだいい仕事をされており、社会に還元してほしいと思ったので意見として言わせていただいた。</p>

外部委員	前作に使用された農薬の作物残留検査について、さきほどの説明によれば今後も実施していく必要があると感じたが、今後も継続して実施していくのか。
事務局	プロジェクトチームについては、旧3法人の統合の際、新たに計画に記載された事項であり、その結果を本委員会で報告させていただいている。次期目標期間では特にプロジェクトチームに関する計画はないが、緊急的に対応する必要がある場合は必要に応じてプロジェクトチームを設置し、対応していきたい。
外部委員	FAMICはISO9000に基づいて業務を遂行されていると聞いている。さきほどの精度管理に関するプロジェクトチームにおいて検討課題として、試薬や標準品の管理を上げていないが、これらについても共通のルールに基づいて管理を行う必要があるのではないか。
事務局	試薬については事務所ごとに管理を行っている。どのような試薬管理を行うかについては、分析体制が異なるためそれぞれ実態に応じて管理を行っている。
外部委員	国民から見れば部門が異なっても同一組織内の話なので、同じルールで運営するべきだと思う。現場の事情を考慮すると管理方法がバラバラになってしまうので、少なくとも品質管理のベースになる部分についてはルールの統一化を図るべきだと思う。
事務局	ご指摘はもっともであり、外部の方にも説明できるよう、プロジェクトチームの検討の際に留意していきたい。
内部委員	標準品に関して補足させていただく。購入は本部一括で必要に応じて地方事務所に配布するとともに、残量があっても有効期限は1年としている。地域センターで分析したサンプルで高い数値が出たら、本部で再分析を行ってクロスチェックをしている。このように本部と共通の管理体制をとっている。
外部委員	研修等に関するプロジェクトチームの検討結果の取りまとめ時期が3月中旬となっているが、得られた結果をいつから体制に反映させる予定なのか。取りまとめ時期からすると23年度に取り入れることは難しいと思う。また、検討期間について10ヶ月は長すぎるのではないか。
事務局	本来業務と併行して検討を行っているため、期間が長く取りまとめ時期も遅くなっているのが実情である。改善できる事項については可能なものから適宜取り入れていきたい。
内部委員	このことについて補足させていただきたい。FAMICは3法人が統合したが、管理の仕方がそれぞれ異なっていた。FAMICとして統一した基準で運営していくために

	<p>は、少なくともそれぞれの部長や課長が共通認識を持つ必要があり、そのため問題点の洗い出しや整理を行っているところである。すでに部分的に反映できるものについては改善に生かしている。なお、検討した内容すべての取りまとめを終了するのが3月中旬である。</p>
--	--

(6) 次期中期目標について

(7) 各外部委員からのコメント

外部委員	<p>これまで評価結果が「A評価」となっており、努力に敬意を表したい。</p> <p>肥料業界において汚泥肥料の名称を変更してほしいとの要望がある。肥料に関しても企業からの相談を受けてもらえると思うが、それに加えて業界の要望を把握するためのアンケート調査を実施することは可能か。実施していただければ有り難い。</p> <p>私の所属先に来訪された方に要覧等を活用し、FAMICを紹介している。今後も引き続き広報活動を行い、組織のPRに努めてほしい。</p>
外部委員	<p>以前からわかりやすい名称としてほしいと思っており、最近、FAMICが定着してきたことはたいへん喜ばしいことだと思っている。今後行っている業務についても、わかりやすくPRしてほしい。</p> <p>また、さきほどの説明の際、業務の重複について触れられていたが、林産物の検査など他の業務でも他の機関と重複して実施しているものがあるのではないかと感じている。今後、考えていかなければならない課題だと思う。</p> <p>産業界では人材のグローバル化が進んでいるが、残念ながら官庁は遅れ気味であると思う。活気ある職場とするためにも、いろいろな国の出身者が職員として働いている方がいいのではないかとと思う。</p>
外部委員	<p>さきほども申し上げたが、いい仕事をされているので社会や国民に還元を図っていただきたい。人材交流について官庁は取組が弱いと思う。今後は官民交流が必要ではないか。</p> <p>農薬に関し、海外の情勢が変化しており、民間企業はその対応に苦慮している。是非海外の実情や日本への影響などについて、業界紙や学会誌、その他の広報誌等を通じて情報を発信していただきたい。</p>
外部委員	<p>指摘を受けた事項について、次年度に改善を図っており適切に対応されていると思う。今後も国民の立場に立って質の高いサービスの提供に努めてほしい。</p>
外部委員	<p>第2期目標期間では適切に効率化を図られていたと思う。第3期ではさらに企業並みの運営を求められるように感じる。そのため、FAMICの存在意義を発揮できる強みを磨いていくことが大事だと思う。</p>
外部委員	<p>企業に勤務する者として、公的機関に対する期待は大きい。「食の安全・安心」とセ</p>

	<p>ットで使用されることが多いが、「安全」は企業の努力次第で100%に限りなく近づけることができるものの、「安心」は心の問題であり、本来は同列で扱うべきではないと思っている。FAMICは中期目標において「食の安全と消費者の信頼の確保」と掲げており、科学的な観点に立って業務を遂行していこうという姿勢を明確に示しており、こうしたFAMICの姿勢を社会に広げていただきたい。</p> <p>このほか、JAS規格の見直しに関する要望を申し上げたい。私は企業の消費者対応の部署に長く勤務しているが、最近の消費者は食に関する知識が乏しくなっていると感じている。今後、行政はこうした国民の実態を踏まえて法律・制度を運用していく必要があると思っている。しかしながら、行政に相談を持ちかけてもあまり親身になって対応してもらえない。FAMICがどの程度関与しているかわからないが、消費者の実態を考慮して見直し作業をしていただくと有り難い。</p>
外部委員	<p>消費者の食に対する関心は年々高まっており、加工食品の原料原産地表示制度は拡大されていこう。また、現在、国民生活センターが見直すこととされている。状況によっては商品テスト事業の機能の一部をFAMICが担うことも想定され、今後のFAMICに対する期待は高まっていくと思う。</p> <p>このほか、FAMICはCodexに関して残留農薬部会のみ対応されているが、食品表示・基準についてもCodexに準拠していることから、今後は食品表示・基準についてもCodex会議に積極的に関わり、情報収集を図ってもらいたい。</p>
外部委員	<p>国際対応について要望を申し上げたい。最近ではアメリカのFDAの存在感が増しており、海外の規格・基準が国内でも幅を利かせているのが実態である。FAMICが基準作りに関与できるよう、国際対応に力を入れていってもらいたい。そのためには、国際的に対応できる人材を育成していくことが重要になる。</p> <p>このほか、積極的に学会投稿を働きかけるなど、職員のモチベーションの向上、ひいてはFAMICの質的向上を図っていくための仕組みを作ってもらいたい。</p>
外部委員	<p>最近、日本の食品がアジアなど外国で高く評価されているが、高品質と安全性にFAMICが大きく貢献していると思う。</p> <p>肥料や農薬、飼料などの生産資材の安全性について、第一人者として責任を負っており、職員の皆さんは自信を持って仕事に励んでほしい。</p> <p>また、分析のエキスパートとして今後もあり続けるため、人材の育成が大事だと思う。</p>
内部委員	<p>委員の皆様から貴重なご意見いただき、感謝申し上げます。いただいたご意見については真摯に受け止め、少しでも改善できるよう努力をして参りたい。同時に職員には今後も仕事に自信を持って臨んでもらいたいし、この分野のエキスパートとして責務を果たしていかなければならないと思っている。そのためには、国内だけでなく世界で活躍できるように人材を育成していかなければならない。このことに関しては、次期の中期目</p>

標において農林水産省から指示を受けており、検討課題の一つである。今後、早期に実現できるよう、努力していきたい。

最後に、4月から新たな中期目標がスタートする。長期にわたり、ご助言をいただき、改めて感謝申し上げます。今後も引き続き幅広い観点からご助言をいただければ有り難い。

以 上